

地球の木

♡ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

CONTENTS

- 「でも、それはあなたの個人的な考えでしょう？」……………1
- まず村を知ることから……………2
- フンバンさん ただいま日本で研修中……………2
- 教師トレーニング……………3
- ソーラーパネル……………3
- カンボジア・タケオ訪問報告……………4~5
- 横浜開港博 Y150ヒルサイドに出展……………6
- マジカルバナナ改訂中！……………6
- ちょっと言わせて……………7
- みんなおいでよマジカルバナナだよ！……………7
- 事務局新スタッフ……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8

「でも、それは あなたの個人的な考えでしょう？」



副理事長 齋藤 聖 開発教育協会全国研究集会にて

もう10年以上も前の話である。職員室で向かいに座っている教務主任の机の上に、全校生徒に配布するプリントが積まれてあった。PTAからのお知らせで、「文房具を集めてカンボジアの学校に贈る活動に協力しましょう」という内容であった。ビックリしたのは、その活動がPTAの年間活動計画にはなかった、ということだけではない。それが、「全国PTA連絡協議会」から各学校のPTAに送られてきた一通の通知文に依拠するものだと聞かされたからである。見せてもらうと、ある国際援助団体がおこなっている「途上国の学校に文房具を贈る運動」に賛同し、全国のPTAに協力を呼びかける内容であった。

まず、教務主任に話す。次に副校長に、そして校長に。国際協力活動をしている団体は星の数ほどあるのに、なぜその特定の団体の活動に協力することを呼びかけるのか？そしてなによりも、「カンボジアの学校に文房具を贈る」ことが本当にいいことなのか？モノを送る援助が必ずしも現地の人たちのためにならないこと。かつてカンボジアでは援助物資をめぐる殺人未遂の絡む事件も起きていること……。私の必死の訴えに、返ってきた言葉がこれである。「でも、それはあなたの個人的な考えでしょう？」

たまたま、自分のクラスにいるPTA役員のお母さんに電話する。すると「それなら調べてみます」との返事。翌日かかってきた電話によると、その団体の事務局に直接電話して質問をしたり、知り合いの国際協力活動をしている人に訊いてみたりしたそうである。「先生のおっしゃるとおり、

いろいろ問題があることがわかりました。たまたまこういう文書が来たから、じゃあ協力しようかってなったただけなので、これは取りやめにします」

なにもここで当時の管理職の悪口を言いたいのではない。「公的に認められている団体が正規の手続きに沿って送ってきた文書」は「正当である」として疑問を差し挟まず、その内容と異なる意見を「公的なものに対する私的な意見にすぎない」として葬った「人」と、私の意見をとりあえず受け止めて、自分で調べ考えたうえで納得のいく結論を出した「人」。ここから学ぶものがあるのではないか。

「公的なもの」「権威あるもの」は無批判に受け入れ、「思考停止」に陥る恐ろしさ。しかしここで、「公務員にありがち」などとはずれな結論で安心しないでほしい。怖いのは、『思考停止』はだれにでも、知らないうちにやってくるということ。特に高度な情報化社会の現代、「みんながそう言っている」ことは本当にそうなのか、一歩立ち止まって考える習慣を持つことがなにより大切である。今思えば、この一件は今の私に繋がる重要な事件だったのかもしれない。地球の木も、常に議論を重ねながら、決して『思考停止』しない団体として、会員のみならずととも歩んでいきたいと思う。

今年度から副理事長になった齋藤さんは、横浜市内の中学校で長年先生をされていました。地球の木は2002年度から「マジカルバナナ」の出前講座などで、齋藤さんの教育現場での「国際学習」（開発教育）の実施に協力してきました。

サワナケート県支援1年目 “まず村を知ることから”

ご支援いただいているラオス・サワナケート県における森林保全と持続的農業の活動について、今回は具体的な内容についてお伝えします。

サワナケートでの活動として1年目の今年は、村を知ることから始めています。5つの対象村において「参加型農村調査」という手法を用いて、村人自ら地図を描いてもらったり、村の歴史について語ってもらったりしながら、様々な情報を集めました。米不足や家畜の死など、共通の問題がある一方で、各村独特の問題もありますし、また村の雰囲気も違います。例えば、5村中3村を占める少数民族の村の中でも、民族性を強調する村もあれば、お寺もあって主流である低地ラオス人に、より同化している印象の村もあります。また、隣り合っているパノンボン村とタッカデー村の場合、不発弾から染み出る化学物質のせいで家畜が死ぬ、と口を揃える一方で、植林企業の土地取得に対しては、有力者層の怒りの度合いにかなり温度差が感じられます。このようになお一層の調査が必要な事項も多くありますが、集めた情報に基づいて、調査も含めて村人とどんな活動をしていったらよいか始めていきます。

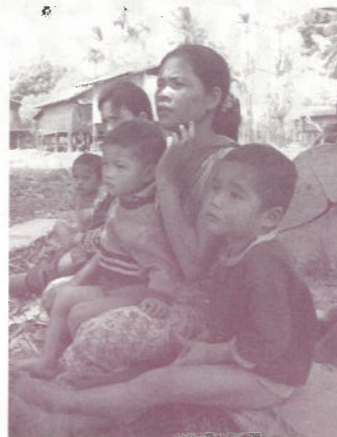
【森林保全活動】

こうして話を詰めていった中で始まったのが、ケンメオ村での「魚の保護地区」の設置です。爆弾や農薬を使って大量に魚を捕ろうとする人が後を絶たず、川の魚が減少しており、村人の中で問題となっていました。これは当初の想定にはなかった、広い意味での自然資源管理の活動となります。また、これまでJVCでは、「土地森林委譲」という国の制度を利用して、村人の森を守ることを試みてきました。現在、土地森林委譲の新しいマニュアルを国が策定中のため、提言を行うべく様々な会議や視察などを、他のNGOとともに進めています。

【農業活動】

自然農業の一環として、村で手に入る材料（牛糞や落ち葉等）を使った堆肥、液肥作りの研修を行ってきました。また、SRI（幼苗1本植え）という稲の分枯力を生かして収量を上げる農法を紹介するため、対象村の村人とともにカムアン県の元の対象村を訪問して、交流を図りました。そのほか、衛生的な水の支援についても、井戸の建設や壊れた井戸の修理について村人と話し合いを進めています。

(JVCラオス現地代表 平野 将人)



発言する村の女性



ザンビアの研修生と共に

「フンパンさん ただ今日本で研修中」

JVCラオス事務所の現地スタッフとなって5年になるフンパン・センチャントンさんが4月から栃木県西那須野にあるアジア学院（毎年アジア・アフリカの農村地域から草の根で活動する農村指導者を招き、9ヵ月間農村リーダー養成の研修を行っている）で学んでいます。地球の木は、彼の研修費の一部を負担し、応援しています。研修の半ばが過ぎたフンパンさんにお話を聞きました。西那須野のキャンパスで彼にいろいろインタビューしてくれたのはJVCの川合千穂さんです。

アジア学院では、60~70種類の野菜を作っており、大体10~15種類がコンスタントに収穫されているそうです。「ラオスにある野菜もあるけれど、ウ

ド、モロヘイヤ、長ネギ、ブロッコリーなどラオスにない野菜も多い」とのことです。

フンパンさんは、最初は英語ができずに、コミュニケーションがうまくいかず、勘違いすることなども多くだいぶ苦労したそうです。でも一生懸命英語の勉強にも励んでいるので、だんだんと成果があらわれています。「最初は有機農業とリーダーシップに関することを単に学ぶだけと思って日本にやってきた。しかしそれだけではなく、たくさんのことを学んでいる。例えば、足尾銅山に行った際に、公害が今も及ぼしている影響などを見た。またいろいろな国からの研修生とのグループ活動は、実際にどうやってマネージメントを行ったら良いかを学ぶことができる。有機農家の伊藤さんの家に行った際には、少ない労働力でもたくさんの農作物を生産できるシステム、産直などを学ぶことができた。そのほか、文化など、実にいろいろなことを学んでいる」と生き生きと語ってくれました。

「あと残り半分の期間にさらに学びたいことは？」との問いには、「穀物や野菜の栽培方法、病虫害が発生したらどういうふうに対処するか、また家畜飼育では、ニワトリの孵卵器の作り方、牛の繁殖や養豚技術など、ラオスでこれから役立つことをまだまだたくさん学びたい。リーダーシップについては、チーム活動の中で体験を通して学んで行きたいし、英語も頑張りたい」といくらでもあげてくれました。きっと充実した日々を過ごすことでしょう。

(編集：会報誌作成チーム)

* アジア学院を訪問するツアーが計画されています。8ページをご覧ください。

教師トレーニング より良い社会をめざして

ネパールで展開している「幸せ分かち合いムーブメント」は、村の子どもたちがおなかをすかせたまま寝るようなことがなく、希望する者全員が教育を受けられる環境を創り出すことを長期目標としています。

2008年度に予定されていた教師トレーニングは、高校3年生の全国統一試験が終わった6月によろやく行われました。先生たちが肩を組み、足をあげてなにやら楽しそうな様子の写真が送られて来ました。2日間のトレーニングの目的は、参加型の教育・学習プロセスを教師と共有することや、教師間で情報を分かち合い、教える上で教師が直面する様々な課題について話し合う場を作ることです。

マンガルタール村とその周辺の15校の先生24名が参加しました。第1日目は、カブレ郡の教育事務所から講師を招き、国の新教育法について学びました。暫定憲法では、初等教育は子どもが最低限必要とするものであると明記され、小学校への女性の教師の配属、母語での教育などが保証されました。学校運営委員会や保護者の学校への関わりについても議論されました。第2日目は、SAGUNのカマルさんとサルバジットさんによる、「社会と教育について」のワークショップ。先生たちの笑顔の写真はこの時の様子です。この日は、体罰について、対象となる生徒に合わせた教育の必要性、社会変革と社会正義に貢献する教育、差別をなくす教育などについての内容が参加型で進められました。

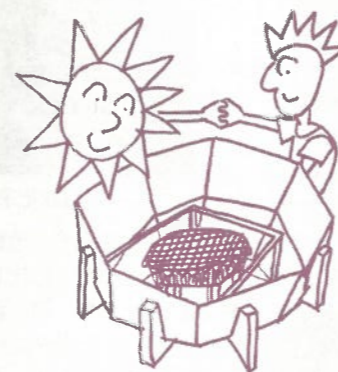
教師たちにとって参加型の手法は驚きだったようで、「ロールプレイや対話式の授業が教師と生徒の関係を良くする」「教師と生徒と保護者の信頼関係が大切なことがわかった」などの感想が聞かれました。トレーニングを通しての学びが今後の授業のあり方に効果が出てくることを期待しています。

「幸せ分かち合いムーブメント」は、高校を中心とした活動から収入創出プログラムへと発展し、村の人々も大きな興味を持っているようです。2009年度は、このようなワークショップを教師、学生、村のリーダー、女性グループなど様々な人たちと行う計画です。

(幸せ分かち合いチーム 丸谷 土都子)



笑顔でワークショップ



手作りのソーラーパネル、ネパールへ!

昨年の「地球の木講座」で製作した2枚のソーラーパネルは、現地の人々の要望に応え、10月初旬にネパールに持って行く予定です。そして、現地の人々が用意したコントローラー、バッテリー、照明器具などと共に、極西部のコミュニティ・センターとカトマンズ近郊の人材育成センターに1組ずつ設置します。

村人たちは、自分たちでパネルを作って普及させていく「コミュニティ事業」を立ち上げたいという希望もっています。これに対しては、村人たちの事業としてやっていけるかどうかを、より深く検討してもらうため、NGO「ソーラーネット」のメンバーにも同行していただき、パネルの作り方、ソーラーシステムの保守・管理についても説明してもらうことになっています。

ところで、太陽光は、電気にするより熱として利用した方がエネルギー効率がいいことを知っていますか? 今日太陽がsun sunと照り輝く「パナナケーキ日和」。好評な(?) ケーキ作りをしよう。私の手製のソーラークッカーで。

(ソーラーパネルチーム 米林 大作)



カンボジア・タケオ 職業訓練センター訪問報告

相談しながら、伝統的な緋の柄のスクーフも注文しています。少女たちはみんな元気でとても意欲的に作業に取り組んでいました。

センターの「売れるものづくり」は、目に見える形でどんどん進んでいます。今後は、センターの変化のスピード、また、「現金収入」が現地に与える影響の大きさについても考えていく段階にあると感じました。（センターで作った地球の木オリジナルのシルク小物は、事務所での販売のほか、おまつり等のイベントでも販売しています。）

地球の木は、2009年度から、これまでも関係のあった「カンボジア市民フォーラム」の団体会員となりました。今回、プノンペンで「カンボジア市民フォーラム」現地調整員の上村未来さんにカンボジアの社会状況を伺ってきました。今後も職業訓練センターの少女たちの状況と併せて、右肩あがりの経済成長を遂げるカンボジアの開発の影の部分についても、伝えていきたいと思ひます。

（クメールシルクチーム 筒井 由紀子）

*カンボジア市民フォーラム：カンボジアに関わるNGO、法律家、研究者、個人などが集まって、1993年に発足されたネットワーク型団体。農業・環境、保健・医療、教育・文化、女性・子ども、平和など各分野にわたり、調査研究、国際シンポジウムの開催、内外NGOとの連携、情報の提供などをおこなっている。地球の木顧問の横川芳江さんが共同代表世話人のひとりである



開発の光と影 カンボジア市民フォーラム現地調整員 上村 未来（かみむらみく）

左から二人目が上村さん

カンボジアでは、近年こうした強制移住や土地に関する問題が各地で頻発している。現地NGOの調査によれば、土地問題で影響を受けた家族数は2007年に8,847だったのに対し、2008年はその約2倍の16,462にも上った。この数字から、土地問題がここ数年で深刻さを増していることが伺える。住む家を失った人々、また、農民が7割以上を占めるこの国で、耕す農地を失った人々の生活がどれほど困難かは容易に想像できるだろう。

開発によってもたらされる負の影響はこの土地問題だけにとどまらない。その背景にある政治的安定を盾にして、表現の自由を規制する動きが特に目立つようになってきた。今年4月、野党議員がフン・セン首相の演説の中でこの議員を誹謗中傷する内容があったとして、同首相に対する訴訟を起こした。その後、この訴訟に対して逆に首相が名誉毀損で同議員を訴え返し、結局、野党議員の訴訟は却下され、首相のそれは審議が継続された結果、同議員の議員特権が剥奪された。

このように、開発による影響は、光と影の両側面を持つことが見て取れる。カンボジアの人々と同じ市民の立場から関わるNGOとして、カンボジア市民フォーラムは今後も、人々の視点で見たカンボジアの現状と課題を積極的に発信していきたいと思う。

どんどんと成長する子どもたち

大藪明恵（染め・織り専門家）

タケオの訓練センターに着くと、子どもたちや先生が笑顔で出迎えてくれました。そのなかで、去年シルクショールのデザインがきらりと光ると感じ、頑張っってねと別れたリムちゃんも待っていてくれて、リムちゃんが先に一歩踏み出してわたしをハグしてくれました。去年はじめて会った時にはもじもじとはにかんでいただけだったのに、そしてなんだか体もこの半年ですごく成長して背も伸びたようです。

織物のライム先生が「植物染めで糸を染めるから」とシルクの糸染めを見せてくれました。スダウという木の皮でベージュピンクに、マップモヌーという草で緑味の黄色にきれいに染まりました。去年、「木の皮からの黄色だけでなく、もっと他の色も植物染めでできないか」という提案をした時は「できない」というにべもない様子だったのですが、このところ色々研究し始めたとのこと。日本人が来て植物染めのショールを沢山買っていったことでも意を強くした様子です。これからの植物染めの展開が楽しみになってきました。

ただ媒染剤を使っていないので日光堅牢度がちょっと心配です。市場で買える媒染剤を探すのが次の課題と思ひました。

それから、前回お願いしておいたカンボジアの伝統柄をアレンジした緋のショールが出来上がっていました。とても良い仕上がりでした。それでさらに、今回のように平織りではなく今度は綾織りで（カンボジアの緋は伝統的に綾織り）、色違いのものなどをお願いしました。

今回はセンターを卒業し、アシスタントから織りの先生になったモンちゃんが相談や取り決めなどすべて担当し、ライム先生は見守っているだけでした。モンちゃんの成長ぶりも素晴らしいと目をみはる思いでした。子どもたちが織るショールからは「デザインを考える楽しさ」を感じるものも多く、どんどんとレベルが上がっています。



糸を染めている

教える喜び、学ぶ喜び

廣瀬 秀子（裁縫専門家）



「また来るよ！」

本当にみんな大きくなっていました。体の成長はもちろん、気配りや行動など成長期の「7ヵ月」は子どもたちをこんなに成長させるのだと感動しました。早速注文品をみせてもらいましたが、注文どおり全部出来ていました。一先ず「ほっ！」です。でも一つひとつをよく見ると、100点と言うわけにはいきません。小物は1mm歪んでいても気になるものです。被さる部分はふわっと内側に落ち着くように仕上げで欲しい…等等。全体的にはきちんと出来ているのですが、絹を仕上げるのは難しいのです。「どうしましょ…」子どもたちは不安そうに私の顔を一生懸命読み取ろうとしています。目と目が合いました。私はにこっと笑って子どもたちを抱きしめました。「よくがんばったわね。ありがとう」子どもたちもほっとして笑顔で私を抱きしめ返しました。「難しかったでしょう。よく出来たわね。それでね…ここはね…」と話し出すと子どもたちの顔がまたちょっと曇り始めましたが「後で一緒にやってみましょう」の私の言葉にまた明るくうなずいてくれました。

それからまた、前回の様に布を床に広げて、みんなで次回の注文品の裁断作業に日没まで励み、翌日の出発まで汗だくの作業が続きました。

帰りの時間が迫り、いろいろ気になる部分について私なりのコツを伝え、やって見せました。いよいよ時間です。「頑張っってね。分かったかな？」と言うと、子どもたちは私の目をしっかりみて、日本語で「ありがとう」と言ったのです。私は又胸がいっぱいになって子どもたちを抱きしめました。

ボランティアは人のためではないのです。私自身にこんなに沢山の感動と幸福を与えてくれるのです。改めて自己満足にならない事の戒めを心に刻んでタケオを離れました。

心に残る歌声

岸 夏代（地球の木理事：収益事業担当）

職業訓練センターの女の子たちは、私たちの到着を慎ましい微笑みで礼儀正しく迎えてくれた。毎日、根気の要る細かい作業に励んで、電気もない農村で数少ない楽しみといえば、バッテリーに電線をつないだ小さなテレビで見るドラマだ。しかし、この日はテレビを見ることもなく、私たちと片言の英語やカンボジア語で話したくてたまらなかつたようだ。いつまでもそばにいて、覚えてたの日本語を言ってみせて笑いあった。早朝、散歩の帰り道、何人かの女の子がカンボジアの歌をはじめは恥ずかしそうにソロで歌ってくれた。クメールシルクの光沢同様、その歌声は、カンボジアの誇りと言わんばかりに、朝日に照らされていた。いのちは輝く。少女たちに幸あれと私は祈った。



バッテリーで明かりをつけ語り合う

ハサミをありがとうございました！

前回の会報誌で「眠っているハサミ」を皆さまから募集したところ、4丁のハサミが集まり、裁縫クラスの生徒たちそれぞれに手渡されました。切れ味のよいハサミを手にした少女たちはとても嬉しそうに作業していました。ご協力ありがとうございました。



よこはま開港博 Y150ヒルサイドに出展 (7/14~20)

「ここが横浜とはちょっと思えないなあ」ぐりと遠くを見回しながら、若いカップルが会場のゲート付近でそんなことを言っている。横浜市北西部、緑区と旭区にまたがる里山の中に出現した、横浜開港150周年記念イベントの会場「つながりの森」は、一角に小さな農園、棚田、そば畑などもあり、風がよく通る気持ちの良い空間だ。施設の随所に可能な限り竹をつかっているのが目を引く。

地球の木が出展したのは、メイン会場「竹の海原」の中の「世界とつながる国際協力のひろば」。写真やクイズで支援地のプロジェクトを紹介し、カンボジアの織物も展示。また、ネパールの識字教育をテーマに、字の読めないことを体験し紙芝居で現地の様子を知るワークショップを行った。参加者の感想は「教育は男女の差別をなくするために必要」「識字教育を受けることによって、女性たちが力を発揮していく姿にとても感動した」など。



ボランティアと共に記念撮影

すまして通り過ぎそうな人も、ちょっと声をかけ話をし、ワークショップに加わってもらおうと、顔つきも変わり熱心に意見を言う人になったりする。やはりこんな地道な活動の積み重ねが大事なかもしれない。

7日間にわたってボランティアが出動したが、それは、会員同士が、楽しく交流しながら、地球の木の活動をより知ることにつながったともいえよう。そして、「やっと近くで手伝える機会ができたので」と言って出てきてくれた古くからの会員や、地球の木が最近見つけた新しいつながりを通じて、参加した若いボランティアも5人いた。その中のある20代後半の男性は「幸せ分かち合いムーブメントの展示を見て、今自分が技術指導している中国の工場で、この参加型の手法を使ってやってみたいと思った」と語った。

(会報誌作成チーム 斎藤 和子)

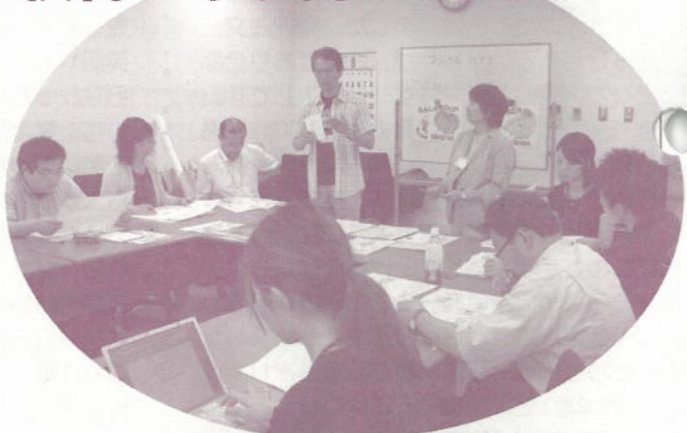
マジカルバナナ改訂中!

七夕でにぎわう仙台で教材のあり方を考える

地球の木オリジナル教材「マジカルバナナ」が誕生して10年経ちました。私たちの消費のあり方を考える教材で、ロングセラーとなりました。広大なボランティアで作られた多国籍企業のパナナと、飢饉に苦しむさとうきび労働者の自立のために民衆交易で日本に輸入された山に自生するバナナについてクイズやカードゲームで知り、それぞれの生産者の暮らしをロールプレイで体験する内容となっています。「NEWマジカルバナナ」も在庫がほぼなくなり、さらに改訂版を作成中です。

10年の間にバナナの状況は大きく変わりました。有機バナナ、エコバナナ、高地バナナなどがお店に並んでいます。農薬を使ったもの、使わないもの、という簡単な比較ができません。また、環境に配慮しているなど企業独自の認証制度を導入する動きもあり、実情が見えにくくなっています。しかし、現地では未だに農薬の空中散布や労働条件、環境汚染に関して争議が起きているのも事実です。

このような状況から、ボランティアバナナの描き方をどうするのが改訂の課題となっていました。そこで、8月初めに仙台で行われた「開発教育全国研究集会」の自主ラウンドテーブルで問題提起し、意見を聞くことにしました。



発表する斎藤さんと丸谷さん

地球の木からは斎藤聖さんと私が発表。教員、NGOスタッフ、農作物の認証制度に取り組んでいる人など14名の参加者からたくさんの貴重な意見をいただくことができました。

「企業と民衆交易の10年間の推移のデータを載せるとよい」「労働者の生活改善を訴える手紙を企業や政府に送るaction planを提案するのは?」「グローバルな認証制度について調べる」など。使う側の意見を知ることができたと同時に、教材を世に出す責任の重さをひしひしと感じた45分でした。(マジカルバナナ改訂チーム 丸谷 士都子)



ちょっと言わせて

日本の高速道路の第一号は1963年名神高速道路の粟東～尼崎間71.1km。右肩上がりの経済成長と共に、日本中に産業とレジャーのための動脈として張り巡らされた道路、日本人の勤勉さが勝ち得た結果としてほとんどの人々が何の疑問も持たなかった。しかし、経済成長に陰りが見え、地方都市の財政難、破たんが現実のものとなって来ても高速道路は地元の要望として造り続けられている。

そして、去年のアメリカ発の金融危機が世界中を駆け巡り、日本も経済が落ち込み、職を失う人が増えた。毎日のニュースがこの危機的経済状況を次から次へと伝え、庶民は、家計のやり繰りに頭を悩ましていた。政府はどんな政策をとろうとしているのか国民が見守る中、経済の活性化の一つとして高速道路通行料を土、日、祝日1,000円にした。ただしETC車に限るという政策。車を持ち高い高速道路代に不満を募らせていた人々は安くなるのはうれしいが、車を持っていない人、ETC車にしていない人にはなんのメリットもない。ETC利用車は6月現在全国の高速道路利用者のうちで約81% (国土交通省) だという。

土、日、祝日の高速道路は大渋滞であるとニュースは伝えている。それは排気ガスを撒き散らし、CO2を大量に排出しているということだ。地球温暖化はCO2が原因要素といわれ、その削減が世界中で叫ばれているのに、環境政策はどうなっているのか。家庭のCO2を減らすためのキャンペーンコマーシャルがTVで流れているのを見ながら思う。「これって、おかしいよね!」

(会報誌作成チーム 柏柳 妙)

活動日誌 (6月~8月抜粋)

- | | | | |
|-------|---|---------|----------------------------|
| 6月 3日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 14日~20日 | Y150横浜ヒルサイドつながりの森国際協力ひろば出展 |
| 6・7日 | かまくら市民活動の日フェスティバル (鎌倉市生涯学習支援センター) (三浦ランチ) | 15日 | 第2回ランチ連絡会 |
| 9日 | 代表者会議 | 16日 | 代表者会議 NGOかながわ国際協力会議 |
| 11日 | 生活クラブ総代会出席 ESD研究会で発表 | 18日 | 地球の木サロン「ハングルに親しむ」、Z会 (YNN) |
| 15日 | 第1回ランチ連絡会 | 22日 | 地球の木カフェ |
| 16日 | YNN総会 | 23日 | 第3回理事会 理事研修 (JVC清水氏) |
| 17日 | 地球の木サロン「Tea&Talk」 | 25日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」 |
| 20日 | 鎌倉女学院国際セミナーワークショップ
地球の木サロン「ハングルに親しむ」 | 25・26日 | 港南台国際協力まつり (なんぶランチ) |
| 25日 | 第2回理事会 | 8月 5日 | 第4回理事会 地球の木サロン「実践英会話」 |
| 27日 | 地球の木サロン「エッセイ修行」 | 6日 | 茅ヶ崎マジカルバナナ (香川公民館) (湘南ランチ) |
| 30日 | あーすネット総会 | 8・9日 | DEAR全国研究集会参加 (仙台) |
| 7月 1日 | 地球の木サロン「実践英会話」 | 17日 | 第3回ランチ連絡会 |
| 4日 | スタディツアー合同説明会 | 18日 | ESD教材総合展 (あーすプラザ) |
| 7~14日 | カンボジア・ラオス訪問 | 19日 | 地球の木サロン「Beer&Talk」 |
| 12日 | 鎌人いち場 (鎌倉) (三浦・湘南ランチ) | 22・30日 | 横浜下町パラダイスマつり出店 |
| | | 23日~9/1 | ネパール調査 |
| | | 30日 | つるみOPENカフェ (とうぶランチ) |



「みんなおいでよ、マジカルバナナだよ!」 8月6日

JR相模線の香川駅からコミュニティバスに揺られて約5分、徒歩10分の所に香川公民館がある。130グループが活動するという茅ヶ崎市香川地区のコミュニティ・スペース。去年の夏、好評を博した「ハロハロパーティ」がきっかけで、参加者のグループから「今年もぜひワークショップをやってほしい」との依頼を受け、湘南ランチの國分さんが「ヨッシャ」とファシリテーター (進行役) を引き受けた。ランチ連絡会の仲間たちも川崎、二ノ宮から助っ人に馳せ参じ、夏休み子ども企画を盛り上げた。

地球の木が支援していたフィリピンのクイズでは、島が7,000もあると知って、子どもも大人もびっくり!バナナ村の劇を一所懸命演じた子どもたちは、現地の子どもの「今日はお弁当があるのワ〜!水を飲んでおなかを一杯にしないでいいね」という台詞を初め理解できなかったようだ。いつもおなか一杯食べている先進国の私たち、満足に食べられない途上国の子どもたち……。

「こんな世界があることを知らなかった!」ワークショップの後、5年生がぼつりと言った。

(ランチ連絡会 乳井 京子)

どうぞよろしく

事務局スタッフ 丸山 珠美

6月から地球の木事務局でお世話になっています。地球の木に関わるようになってまだ日は浅いですが、考えさせられること、学ぶことがとても多く自分自身の生活を見つめ直すきっかけにもなっています。まだまだ力不足ですが、「共に生きるために、できることから始めたい」「自分にできることを探して地球の木と共に成長していきたい」と考えています。どうぞよろしくお願いたします。



地球の木カレンダー2010は、「子どもたちの大地」です

長倉洋海さんが各国の生き生きとした子どもたちを撮りました。子どもたちには、国境も紛争もありません。世界中の子どもたちは皆、私たち子どもたちです。2010年は「子どもたちの笑顔」に会いませんか。

サイズ：28×38.5cm（使用時58×38.5cm壁掛け）

制作元：日本国際ボランティアセンター

価格：1,500円

オールカラー、月の満ち欠けを表記、書き込みがしやすい

*同封のチラシの裏面がFAX申し込み用紙になっております。

アジア学院訪問ツアー ＜フンパンさんの応援+農作業体験＞

現在アジア学院にて農業研修中のJVCラオスの現地スタッフ、フンパンさんを訪ねます。フンパンさんとの交流とアジア学院の活動の一端を体験してみませんか？

日時：9月27日(日) 15:00
JR東北本線「西那須野」駅集合
9月28日(月) 16:00
「西那須野」駅解散

場所：栃木県那須塩原市「学校法人アジア学院
(アジア農村指導者養成専門学校)」

内容：フンパンさんと交流・キャンパスツアーと農作業体験

参加費：会員：9,000円 非会員：10,000円
(セミナーハウス宿泊費・食費3回・送迎バス代等含む。西那須野駅までの交通費は参加者の負担となります)

申込み締切：9月18日(火)

申し込み・問合せ先：地球の木事務局

*持ち物その他詳細につきましては参加者にお知らせいたします。p2に関連記事があります。



グローバルフェスタJAPAN2009

今年も日本最大級の国際協力フェスティバルに参加します。さまざまな活動を見る、シンポジウムを聞く、ワークショップに参加する、各国の味を楽しむ、など1日楽しめます。

地球の木も活動のアピールとアジア支援地のグッズ、「おいしいちぢみ」を販売します。お手伝いして下さるボランティアを大募集しています。ぜひご協力ください。

日時：10月3日(土)、4日(日) 10:00～17:00
場所：東京 日比谷公園

地球の木カフェ in Autumn

恒例のオープンオフィス「地球の木カフェ」。今回は秋冬に活躍すること間違いなしのフェルトの小物たちがネパールから届きました。ぜひお立ち寄りください、事務局スタッフ一同お待ちしております。

日時：10月8日(木) 11:00～18:00
場所：地球の木関内事務所



お知らせ

地球の木では、今年度中の「認定NPO法人」取得を目指して準備を始めています。「認定NPO法人」になると、寄付金に対して税金の控除を受けることができるなどのメリットがあります。同封のお知らせをご確認ください。

現地調査報告会&ネパール料理を楽しむ会 ネパール・マンガルトール村に生きる若者たち

8月に2名がネパールの支援地を訪問しました。2年間の「幸せ分かち合いムーブメント」は村にどのような変化を起こしているのでしょうか？若者たちや村人の現状と夢を報告します。その後は、SUNGAVAのネパール料理を楽しみましょう！

日時：10月10日(土) 15:00～17:00
場所：スガバ SUNGAVA (関内駅徒歩5分)
参加費：資料代300円(料理は実費、1,000円前後)
定員：18名

ネパールプロジェクト12年間の軌跡

大勢の皆さまに応援していただいたネパール(SOARS)教育支援プロジェクトが終了しました。12年間の成果を報告します。交流会でのネパールの踊りも企画中。ぜひご参加ください。

日時：11月28日(土) 13:30～17:00(報告会+交流会)
場所：横浜市民活動支援センター 研修室2
(桜木町駅徒歩7分)
参加費：500円(資料・茶葉代)

地球の木 ネパール・スタディツアー2010 五色の旗たなびくタマン族の村を訪ねる

日時：2010年3月14日(日)～22日(月) 8日9泊
訪問地：ネパール カトマンズ、カブレ郡ドウリケル およびマンガルトール村
参加費：21万円(航空運賃、諸税、現地交通費、宿泊費、食費、プログラム費、コーディネイト費を含む。燃油特別付加運賃、海外旅行傷害保険、日本国内の交通費は含まず)
会員でない方は初年度会費が必要となります。

対象：テーマに関心のある健康な方
内容：訪問する村は、カトマンズからおよそ75kmの山あいの村。仏教のタルチョーの旗が旅人を迎えます。文化を守りながら村人主体の村づくりをめざす先住民タマン族の村にホームステイし、幸せを分かち合う旅です。

定員：10名(先着順) 最少催行人数：5名
申込み締切り：2010年2月5日(金)
説明会：2009年12月19日(土)と2010年1月24日(日)
午前11:00～12:30地球の木事務所にて
旅行企画・実施：風の旅行社
現地プログラム企画：地球の木
申込・問合せ：地球の木 詳しくは、ちらしをご覧ください。

★ボランティア募集！
発送作業、イベント手伝いなど

